

# 日本学術会議

## 若手アカデミー会議(第24期・第1回)国際分科会

### 議事要旨

日 時 平成30年3月29日(水) 8:00~9:30

会 場 休暇村 志賀島 金印の間(A)

出席者: 狩野、岸村、安田、荒木、新福、西嶋、中澤、竹村、中西

#### 議事及び次第

##### (1) 自己紹介

##### (2) 委員長選出及び役員選出

- ・委員長: 新福
- ・副委員長: 西嶋
- ・幹事: 安田、中西

が選出された。

- ・役員の役割については、配布した資料1の通り、合意された。

##### (3) 24期の活動方針について

###### 1. 教育システムが脆弱な国や地域での人材交流 (西嶋)

- ・ミャンマーの事例(人材不足、学協会・業界団体が存在していない国)の紹介。

→人材育成に関するプロジェクトはある(京大等がやっている JICA 事業等)。学協会・業界団体の役割について注意を払っているプロジェクトはあるのか?

- ・業界団体学協会が果たす各国の役割について、GYA で既存の活動があるか調べる→新福

###### 2. SGU (スーパーグローバル大学) の実体化

・それぞれの SGU 大学の特色がわかるリスト(〇〇をやりたいなら△△大学)があるとよい。羅針盤的なもの。

###### 3. 国際化に伴う大学のインフラ整備 (中西)

- ・英語化された書類の共有をしてはどうか?

- ・大学だけが国際化しても、日本への在住に際し公的施設や地域の国際化が必須。

→大分市のアジア立命館大学は成功例。

- ・例えば、外国人受け入れ手続きメモをオンラインで共有する仕組みを作る。

→まずは国際分科会のメンバーでの経験を共有するところから始めてみる。

#### 4. 海外におけるデータ取得に関する障壁 (安田)

- ・ サンプルの持ち出しルールが明確になっていない、ルールが煩雑な国（名古屋議定書に批准している国）があり、研究活動が阻害されている。
- ・ サンプル取得過程が明確でないものは論文にできない環境になりつつある。
- ・ まずは現状がどうなっているのかをもう少し経験してから次のステップに進みたい（安田）
- ・ 情報が整理された時点で、経産省等との情報共有、意見交換。

#### (4) 各活動のリーダー選定

西嶋：教育システムが脆弱な国や地域での人材交流 アウトプット：人材交流による各国の現状の共有

中西：国際化に伴う大学のインフラ整備 アウトプット：提言書

安田：海外におけるデータ取得に関する障壁 アウトプット：提言書

#### (5) 活動の今後の運営について

- ・ リーダーが中心となって活動を進めていく

#### (6) GYA について

- ・ 国際分科会からメンバーを推薦する方向で調整中

#### (7) INGSA/GYA/JYA 能力構築ワークショップについて

- ・ 開催日 平成 30 年 11 月 5 日（月）

#### (8) その他

- ・ 「国際化に伴う大学のインフラ整備」について、各大学の留学生の受け入れに関する手続き・書類を取りまとめ、共有する。
- ・ ある程度情報が集約されたら、オンラインで分科会を実施する。

資料 1 委員長及び役員の役割

資料 2 INGSA/GYA/JYA 能力構築ワークショップについて